

平成 30 年度 大阪府桜塚高等学校 第 3 回 学校運営協議会

日時 平成 31 年 2 月 21 日 (木) 16 時より

場所 会議室

出席者 校長 准校長

委員 武庫川女子大学教授、豊中市地域教育協議会会長

岡町・桜塚商業団体連合会、定時制課程保護者、

大阪府立桜塚高等学校 PTA 会長、大阪府立桜塚高等学校定時制振興会会長、尚和会会長、

事務局 教頭 (全・定)、事務部長、首席 (全)、指導教諭 (全)、教務主任 (全・定)

生徒指導主事 (全)、自治会部長 (全)、進路指導主事 (全)、書記 (定)

内容

司会 教頭

会長挨拶

1 校長、准校長 挨拶

校長 ブロック塀がフェンスに変わったので、花を植えるなどプラスに活用したい。

今回の協議会では、学校経営計画の中期計画のご承認を頂きたい。

准校長 全日制と定時制を並置している高校の中で、全定合同で協議会を開いているのは本校のみであるため、意義のある協議会にしたい。

司会 会長

2 報告

平成 30 年度学校評価について

(全日制)

資料 3 (平成 30 年度 前期・後期 授業アンケート学年別 結果)

・アンダーラインをつけている部分が前期と後期の結果を比較して上昇している項目。

下がっている項目が多いのは、授業が後になるほどだんだん難しくなることが原因だと考えられるが、言い訳にならないよう、上がるように努力したい。

資料 5 (学校教育自己診断結果)

・教職員、生徒、保護者それぞれにアンケートを配布し、回収率は教職員 100%、生徒、保護者は約 90%。

・資料 1 (学校経営計画及び学校評価) の下部に、学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見を載せている。

・資料 1 評価指標において「センター試験において各科目とも全国平均以上」とあるが、平均以上であったのは一部の教科のみと修正する。受験生徒の多くが受験する科目

は平均を下回っている。

Q 本校のセンター試験の平均点はどのくらいか。

A 日本史Bは全国平均63.5点に対して、本校平均67.0点であったが、主要教科については、国語が本校受験者数200人弱で、全国平均121.1点に対し、本校平均105点。数IAが本校受験者数106人で、全国平均59.7点に対し、本校平均53点。英語筆記は200人以上の本校生徒が受験し、全国平均123点に対し、本校平均120点。

(定時制)

資料2(平成30年度学校経営計画及び学校評価)、資料(学校教育自己診断 生徒用集計結果)、資料4(平成30年度 前期・後期 授業アンケート学年別 結果)

・学習指導について、9割近い生徒が授業について工夫されていると肯定的な回答。この項目は前期と後期を比較してみても大幅に上がっている(資料4)。とくに1年生は、「私は、準備をきちんとしている」の項目が3.44から3.76と大幅に上昇している。小中学校では学習がなかなか定着しなかった生徒が、本校に入学し徐々に学習を定着させ、意識が高くなっていると思われる。

Q アンケート項目8「授業内容への興味・関心」9「知識や技能が身についた実感」の平均が低いのでは。

A 本校教員も工夫はしているが、生徒自身に身についた実感が伴っていない。これは改善したい点。生徒自身が自分の力が伸びたと実感できる取り組みをこれからも続けていきたい。

- ・約8割の生徒が「先生に気軽に相談できる」という項目に肯定的な回答をしているが、残り約20名の生徒は先生に気軽に相談できない現状。生徒の顔を見て、声をかけていきたい。
- ・進路指導の項目は肯定的な回答が94%、この5年間で最も高い。1年次からの継続したキャリア教育が結果につながったと思う。
- ・卒業時の正規雇用希望者の合格率80%以上とあるが、内訳は学校からの斡旋により就職を希望した生徒が7名。4名が内定を得た。(資料2)
- ・行事への参加率は70%以上を目標にしているが、平成29年度は60%であった。本校定時制の課程は在籍生徒数160名に対して、長期滞留生徒が約40名いる。長期滞留生徒を除けば、ほぼ全員が毎日登校し、行事にも参加している。
- ・防災や防犯に関する項目の肯定率が教員間で下がっている。今年度の地震や台風の影響で学校にも被害があり、足りていない部分が露呈したことが原因だと考える。
- ・生徒へのアンケートより、中学校の先生の勧めで本校に入学した生徒が多いことが分かっている。よって、今年度は年間3回(6,9,12月)の中学校訪問と、2回の学校説明会を実施し、本校のアピールに力を入れた。説明会の参加者は、合計80名。
- ・4月に開設した准校長ブログの更新回数は現在620回。毎日2~3回更新している。

Q 地震や台風により露呈したさまざまな課題とは具体的にどんなことか。

A 大きな木と外灯の位置関係や、木を支える棒の劣化が原因で、木が折れる、外灯が壊れるといった被害があった。これらは、災害後の被害を目の当たりにして気づいた点であった。

意見 全日制の学校教育自己診断の結果より、生徒による尚和会の認知度が半数を超えていることが分かって嬉しい。引き続き、学校行事を通して尚和会をアピールしていきたい。

意見 全日制の学校教育自己診断の結果より、地域連携の行いについて、生徒と、保護者や教職員との間に意識の差が見られる。商店街の立場からすると、生徒たちに参加してほしいという強い気持ちがあるが、一方的に押し付けるのではなく生徒に対して参加する意義をきちんと伝えて参加してもらうことを忘れないようにしたい。

補足 地域連携などに参加すると生徒の意識は高くなるが、参加する生徒が決まった部活動部員や、自治会生徒に偏ってしまっている。全生徒が対象となるような呼びかけが必要。

意見 生徒に対するアンケート内容が毎年同じであるなら、今の3年が2年、もしくは1年のときどうだったのか、と学年進行で見えていくと、上手く働いた要因などを分析しやすいのではないか。

意見 項目が多いと生徒は答えるのが大変だと思う。質問の量の多さ故に分かることもあるが、質の高い質問をする方がいい。「集中して先生の話の話を聞いているか」のような受け身の質問ではなく、小中学校で実施している学習状況調査のように、「自分の意見を発表する場があったか」など主体的な学びがあるかを問い、何を身につけさせたいかが明確に分かるような質問の方がよいと感じる。

補足 新カリキュラムに対応して、アンケートを抜本的に変更することを検討中

意見 すこやかネットの活動として、11月10日に地域のごみ回収を行った。野球部員や自治会生徒が参加してくれ、小学生とともに頑張っていた。すこやかニュースに載せる予定。校長先生の野菜ブースや自治会生徒による劇も大変好評で、一段と桜塚の魅力が伝わった。今後も地域連携へのご協力をお願いしたい。

3 協議

平成31年度学校経営計画について

(全日制)

資料6 (平成31年度 学校経営計画及び学校評価)

- ・下線部は変更した部分。新学習指導要領を踏まえた取り組みを進めている。
- ・新1年生には、キーボードを取り外しできるタブレット(クロームブック)を購入させる。
- ・資料6の1(7)図書館の利用について、「利用者数の前年比20%増」は現在確認中。
- ・残業時間月平均80時間未満厳守であったのを「45時間未満を目指す」に変更。

Q クロムブックの価格はいくらか。

A 本体4万円台に3年間の保証付きで7万円。

それに伴い、海外修学旅行の費用15万円の見直しや行先の変更を検討。

Q 生徒に電子機器を購入させることに伴って、先生も頑張らないといけないと思うが何か対策は考えているか。

A 昨年度、全先生にノートパソコンを配布。クロムブックの購入先には、講習や研修の充実をお願いしている。来年度の研修の予定も既に決まっている。

意見 キーボードを使えない大学生が就職活動のときに困るという事例が増えている。大学でもタイピングの練習を組み込んでいる。キーボードも使える機種はよい。

Q 残業時間を減らすには生徒対応やクラブ活動の時間も見直さないと実現は難しいと思うが、生徒にしわ寄せが来ないような対応は考えているのか。

A 部活動の業務を、主顧問が全て担っていることが多いので、副顧問などとの連携により過度な業務にならないよう配慮したい。学校業務については、欠席連絡を受付ける時間を従来7時からであったところを8時からにすることを考えている。また夕方5時以降の事務室への電話に対して、「桜塚高校定時制の課程です」と答えるようにし、全日制教員の勤務時間外であることを伝え、勤務時間外の業務を減らしたい。

Q 小中学校では、事務処理、書類作成の増加を再度見直ししているようですが。

A 本校も見直していきたい。

資料8（土曜授業と木曜7限 LHR）

- ・従来土曜授業を12回行っていたが、クラブ活動による公欠、担当教員のクラブ活動引率による自習などが多く、土曜授業はなくす方向で来年度よりカリキュラムを移行し始める。来年度は9回実施予定。また、土曜授業の分の授業時間確保について、教員へのアンケート結果より木曜7限にLHRを入れることにした。新カリキュラムの2022年度からは、週33コマの授業を32コマにし、1単位減らす。部活動の時間が減ることに対しては、最終下校時間を17時45分に戻すことで部活動の時間の確保を考えている。

補足（准校長）下校時間の延長に関しては、2020年度までに定時制生徒の登校の動線などを確認して、調整していきたい。

意見 木曜7限にLHRという変更、単位数の減少により、学力をつけてほしい保護者からは反対の意見もあるかもしれない。しかし、教科の単位数以上に、授業の在り方を見直すことが大事。LHRの時間の中でも様々な問いかけを投げかけ、生徒の自発的な学習に結び付けてほしい。そうすることが先生方のゆとりにもつながり、結果的に生徒への細かな対

応に成果が出ると思う。

(定時制)

資料 7 (平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価)

- ・現在の取り組みを継続して行うため、中間目標の大きな変更はない。
- ・現在の取り組みとの変更点は 3 点。1 つめは一生懸命勉強しているが力がついたという達成感がないという生徒が多い現状を改善するため、定期テストの前の勉強会を行う教科が増えたこと、2 つめは、職員室前の学習スペースの改善により、勉強しやすい環境づくりに努めていること、3 つめは、継続的・安定的な業務にするため、委員会が行っていた機能を分掌に移行する計画を立てていること。

Q ICT の効果的な活用の具体例

A 全教室に設置しているプロジェクタを使って、資料集を使いこなせない生徒に向けて、動画や資料を映し出して生徒の理解を深めている。今後は先生が使うだけでなく、生徒が調べ学習等に使用して主体的に考える場面を増やしていきたい。

4 その他

- 意見
- ・保護者は学校の雰囲気をよく見ている。桜塚高校はのびのびやっていると良い評判を耳にするので、風紀を乱すことなく、これからも頑張ってよりよい学校にしてほしい。
 - ・生徒の様子は年々変化している。その変化から自分たちも学んでいくことが必要。
 - ・現役の生徒が頑張っている姿が励みになる。同窓会も様々な形で支援していきたい。
 - ・生徒の様子や状況を把握して、工夫していることが分かってよかった。
 - ・残業時間の減少と、生徒への手厚い指導のバランスを取ってこれからも頑張ってほしい。

Q スマホのルールはどうしていますか。

A 教室への持ち込みは可。授業中は担当の先生の指示に従い使用すること。休み時間は自由に使用してよいというルールにしている。学校の Wi-Fi が使用禁止だと、授業中にスマホを使って調べるよう指示をしても、自分のスマホを使うのを嫌がる生徒もいる。1 人 1 台のタブレットになることで、そのようなことが減るのではないだろうか。

次回平成 31 年度第 1 回の候補は、6 月 22 日 (土) または 6 月 20 日 (木) いずれも 16 時からの予定。